

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成20年7月24日(2008.7.24)

【公開番号】特開2006-17710(P2006-17710A)

【公開日】平成18年1月19日(2006.1.19)

【年通号数】公開・登録公報2006-003

【出願番号】特願2005-182533(P2005-182533)

【国際特許分類】

G 01 R 29/02 (2006.01)

【F I】

G 01 R 29/02 L

【手続補正書】

【提出日】平成20年6月11日(2008.6.11)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

データ入力ストリームからクロック信号を回復し、被回復クロック信号を提供するステップと、

サンプル期間において前記被回復クロック信号をカウントし、被回復クロックカウントを提供するステップと、

前記サンプル期間において第一の基準信号をカウントし、基準信号カウントを提供するステップと、

前記被回復クロックカウントを前記基準信号カウントと比較するステップと、

前記サンプル期間における前記被回復クロック信号の周波数を算出するステップと、

を有するジッタ周波数応答を計測する方法。

【請求項2】

前記第一の基準信号が、前記被回復クロック信号の周波数よりも大きい周波数を有する請求項1に記載の方法。

【請求項3】

前記データ入力ストリームが集積回路に供給され、

前記被回復クロック信号をカウントするステップ、前記第一の基準信号をカウントするステップ、および前記被回復クロック信号を比較するステップが、前記集積回路によって実行される請求項1に記載の方法。

【請求項4】

前記クロック信号を回復するステップの前に、クロック回復回路のクロック回復帯域幅を調節するステップをさらに有する請求項1に記載の方法。

【請求項5】

前記データ入力ストリームが、最大ジッタ周波数仕様値と公称クロック周波数を有し、前記クロック回復帯域幅が、前記公称クロック周波数と前記最大ジッタ仕様値の合計を下回らないように調節される請求項4に記載の方法。

【請求項6】

前記サンプル期間において前記被回復クロック信号をカウントするステップの前に、前記サンプル期間を選択的に調節するステップをさらに有する請求項1に記載の方法。

【請求項7】

第二の基準信号を供給するステップと、

前記第二の基準信号に乗算を施して前記第二の基準信号を取得するステップと、
をさらに有する請求項 1 に記載の方法。

【請求項 8】

前記データ入力ストリームおよび前記第二の基準信号が集積回路に供給され、
前記第二の基準信号に乗算を施すステップ、前記被回復クロック信号をカウントするス
テップ、前記第一の基準信号をカウントするステップ、および前記被回復クロック信号を
比較するステップが、前記集積回路によって実行される請求項 7 に記載の方法。

【請求項 9】

前記データ入力ストリームが最大ジッタ仕様値を有し、
ジッタ周波数スペクトラムが前記最大ジッタ仕様値を上回る請求項 1 に記載の方法。

【請求項 10】

前記サンプル期間における前記被回復クロック信号の前記周波数を格納するステップと

複数のサンプル期間にわたって、前記被回復クロック信号の前記周波数を判定するス
テップおよび前記被回復クロック信号の前記周波数を格納するステップを反復することによ
り、選択された数のサンプルを取得するステップと、

前記選択されたサンプルに変換を適用することにより、前記データ入力ストリームのジ
ッタ周波数スペクトラムを取得するステップと、
をさらに有する請求項 1 に記載の方法。